



スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

✿ 日本自立生活センター自立支援事業所 2023年3月28日発行 第144号

2023年度を迎えるにあたって 小泉浩子

自立支援事業所は、2003年から始まり今年で20年となります。

設立当初、重度訪問介護を行う事業所はほとんどありませんでした。その中で、とにかく介助者の確保など日々を回すことに精一杯でした。また、その人その人の生活に合った介助の時間数の確保をするためにケースワーカーとのやり取りや行政交渉なども JCIL の当事者スタッフと共に続けてきました。その中で事業所も大きくなっていきました。

あれから 20 年がたち、京都市では 24 時間介助の支給決定も必要な人には出るようになってきています。そして、居宅介護事業所が京都市内に 300 以上もできており、一人の利用者に対していくつもの事業所が協力しあって入っている現場もあります。

その流れの中で、今、当事業所全体を見たときに、現場、現場でいろいろな難しさがあります。利用者の「高齢化」による介助の変化。障害の上に後から「病」が入り込んで介助内容が複雑になっていくこと。また、「精神」、「発達障害」など、最初見えていた障害の中に別なものが見えてくる現場もあります。

その場、その場で利用者、介助者また、関わる人たちが協力しながら、時にぶつかり合いながら、模索しながらの日々なのだと思います。

当事業所は「自立生活センター」として、「介助」はサービス（いわゆる商売として客の気に入るように世話をすること）を受けているのではなくて、「人権」（人が人として社会の中で自由に考え自由に行動し幸せに暮らせる権利）であるとの考え方をしています。

今、あらためて、この違いを考えていかななくては、おかしなことになっていくのではないかと感じる時があります。もちろん、「介助」の中に「サービス」的な要素は必要だとも思います。サービス化していく方が、いい介助のように見えるし、介助者にとっても楽な面もあるのかと思います。ですが、過度な「サービス化」は、結局は、その人の「人権」を守れないのではないのか？とも感じます。

かといって「介助は障害者にとって人権だ」というだけでは、いろいろな人間関係に丁寧にアプローチできないこともあるかと思っています。介助現場は、人と人が同じ場所に長い時間いるのだから、そこを柔らかく安心できる空間にできるか？ そうしたことを考えていくことも大事になるように思います。

だからこそ、まずは、初心にかえり、改めて、介助者のみなさんの「あいさつ」「身だしなみ」「話し方・言葉遣い」「聴き方」「立ち振る舞い」や、介助現場での自分の姿を今一度、考えてみてもらえたらと思います。そうすることで、自分自身の心に触れることができるように思います。

また、事業所内では、いろいろな場面で「対話」を大切にしていこうという動きがあります。その中でも、初心にかえり改めて自分のことを考えてみることも必要に思います。2023年度もどうぞみなさまよろしくお願ひいたします。

障害のある子どもたちの今とこれから【暮らし、支援、教育】



第 1 回 2023 年 2 月 9 日 (木) 13:00-16:30

障害のある子どもたちの療育、教育、福祉サービス



2 月 9 日と 2 月 28 日の 2 日にわたって行われたシンポジウムの 1 回目で、インクルーシブ教育について、お話をさせてもらいました。二日とも、昨年に引き続き、居連協との共催で、施設関係者も含むさまざまな立場の方との間で、充実した意見交換が行われたことが、印象的でした。

特に、1 回目のシンポジウムでは、特別支援学校に在学する障害を持つ子供を母親が殺害するという事件を受けて、障害を持つ子供たちとその親御さんのおかれている状況やそれを支えるべき福祉や教育の課題について、かなり、踏み込んだお話や議論が行われました。障害者の当事者運動において、青い芝の会の運動に典型的なように、障害当事者が親から独立した自由な存在として自立や権利主張を貫くうえで、常に親御さんや家族との間に、いくつかの緊張関係が存在してきたことは、ある意味で当然のことだったと思います。今回、画期的だったのは、当事者の人たちが、障害を持つ子供を支え、ケアを行う存在としての親や家族の悩みや苦しみに、まっすぐにむきあ

おうとしたことではないでしょうか。社会のさまざまな変化の中で、当事者がむきあう親や家族というものが、実は、それ自体、もろくこわれやすいものであることが、あらわになってきたということもあるでしょう。

また、最初にお話しされた池添さんがおっしゃられたように、少なくとも、親や家族というものが、障害者の命や権利を守る、かけがえのないケアラーでもあったし、あり続けているという、あたりまえの事実再度むきあう機が熟してきているのかもしれない。福祉の制度がそれなりに整備されてきた時代となっても、障害を持つ子供、そしてその親御さんや家族が、やはり、孤立や不安や、時に絶望を感じざるを得ないのは、なぜか、という問いについて、児童福祉や障害福祉サービスのあり方、教育のあり方を議論する中で、いくつかのヒントが得られたと思います。当事者自身が、自分の学齢期をふりかえりながら、運動のたてまえではない、自分の実感から語られたことも、とてもよかったと思います。障害者の当事者運動が、自分たちにしか伝え

られない思いや主張を、強く打ち出すとともに、たてまえとしてではなく、本当に、同じ社会を生きる、他の少数者（たとえば障害のタイプのちがう人、女性、いじめられる子供などなど）の悩みや苦しみに耳を傾け、連帯していく新しい時代がはじまる予感が、感じられました。

当事者や支援者が、障害者の親、家族、そして子供時代の自分、新しい時代をになう子供たちとむきあい、これからの社会の課題について、対話することで、当事者、支援者、当事者の家族そ

れぞれに、新しい気づきが得られたのではないのでしょうか。インクルーシブ教育や、インクルーシブな社会を作り上げていく課題の現実的な解決に、一歩ずつ取り組んでいく上で、大切なステップとなった時間だったと思います。皆さん、本当に、ご苦労さまでした。

永井 良和

(障害者権利条約の批准と完全実施を目指す京都実行委員会 インクルーシブ教育部会)

3/12(日)

第43回京都福祉まつり 報告

新型コロナウイルス感染症の対策のために一昨年・昨年は「WEB開催」という形をとりましたが、今年は久しぶりに「現地」にて開催することができました！

春の陽気の中、今回のテーマ「みんなで楽しむ音楽」とおり、さまざまな音楽演奏・歌の流れる楽しいお祭りになり、例年よりも多くの方に参加して頂けて、盛況の中で終えることができました。



ご来場くださった方々、出店や出演をして下さった方々、そして当日朝早くから片付けまでお手伝い下さった皆さまに実行委員一同、感謝しております。

これからも楽しいお祭りをどんどん考えていきたいと思っています。

今後ともよろしく願いいたします！

廣川淳平(京都福祉まつり実行委員)



卓球バレー 始めます！

4/4(火) 13:00-15:00

場所：油小路事務所 担当：宇田・野瀬

皆さん、こんにちは！

今回、宇田さんと担当させて頂く野瀬です！

今回は僕の念願だった卓球バレーをしようと思っています。

僕と宇田さんの母校、鳴滝で発展したとても楽しいスポーツです！

老若男女、手足に障害があっても目が見えなくても出来るスポーツとなっていますので、ぜひ皆さんが参加出来る方法を模索しながら、体験してみませんか？？



居場所づくり勉強会 第71弾

ヨーロッパへ行って来ました 報告会

日時：4月18日(火) 14時~16時

場所：JCIL 本体、Zoom

報告者：大藪光俊、岡山祐美、同行介助者

2月下旬、オーストリアのウィーンで行われたカンファレンスに、筋ジスプロジェクトとして参加してきました。また、ヨーロッパで活動している障害当事者たちや、脱施設化に取り組む支援団体の方々とも交流することができました。他にも、ウィーンやブダペストのバリアフリー事情など、今回のヨーロッパ体験のあれこれを、できるだけ多くの写真を使ってみなさんにご報告したいと思います。ぜひお気軽にご参加ください。

(担当：大藪、岡山)



actions(1)

iving support for patients to transition to the community
We have offered support to transition throughout Japan by involving our broad network of stakeholders including people with disabilities.

omen's Network

he network promotes empowerment through exchanges of information among women with disabilities.

line meeting with inpatients on Zoom
his promotes interaction between patients in the wards and people with disabilities in the community.



#ZeroCon23



* Zoom ミーティングID:
857 3338 1496
* パスコード:
755104



order to fill the gaps to make our society more
So from here,

Zero Projec
For a world with zero barrie